

民報 ゆうばり 北炭新鉱大災害から30年！

「10.16夕張集會に100人参加！」脱原発を考える！



10月16日、はまなす会館において、「北炭新鉱大災害から脱原発を考える夕張市民集會」が行われました。

新鉱大災害の教訓を生かして

筒井勇治実行委員長は「新鉱大災害から30年目の年に福島原発事故が発生した。このエネルギー政策が関連企業の利益を優先するあまり重大な災害が起きている。新鉱大災害の教訓を生かし、脱原発の取り組みを今こそ始めな

論をだす。これまで裁判では電力会社



1トの境目が集まっている」と、原発がいかに危険な状態におかれているかを科学的に話されました。

夕張市はまだ抗議せず

新鉱重大災害事故30年を振り返る話をした森谷猛さんは「いまだになされていなかったことがある。それは、

小野先生の話、分かりやすかった

参加者の感想で、60代の男性は「新鉱での人殺しから今年で30年、いまだに労働者・国民犠牲の政治が続いている。これを正すために頑張る決意を新たにしたい」、30代男性は「原発事故が起きてしまえば、後戻りできない、地球の未来、日本の未来、子どもたちの未来のために絶対廃炉にすべき」との感想でした。市外から参加した方は「泊原発に関係する北海道の地震・活断層など情報がほしい。今日の小野さんの報告は、大変わかりやすく、良かったです」と話していました。集會の開催については「夕張集會をずっと待っていました。参加できて大変うれしく思っています。年齢として決して若くないのですが、ガンバっていきたいと思います」と70代の女性が話していました。

共通点は、国民のいのちとくらしを軽視した人災「原発をなくす！」の一点ですべての人々と連帯を！

企業利益優先の体質が再び福島原発事故に！

「原発をなくす！」と訴えましました。

裁判で証拠にもとづき結論を出す

来賓挨拶に立った共産党道副委員長長嶋山和也さんは「事故の3か月前に共産党小笠原参議院議員長（当時）等による調査団が夕張に入り、労働者の声を聞いた。現場の異常を訴える声をとりあげ、北炭

地震国日本で原発は無理

さらに、地質学の専門家として世界中の地震発生状況を示し、「日本列島が大きな地震地帯の上にある、その根源は4つのプレ



「事故が起きた後の責任問題がきちんとされないまま今日に至り、その不十分さは、今回の福島原発事故にもつながっている」と指摘しました。



寒風の中でくまがい市議訴え

外でじつと聞き入る市民

南空王知女性キャラバン

10月18日宣伝カーで、日本共産党南空知地区の女性でつくるキャラバン隊員7名が夕張市末広地域や若菜平和、清水沢など4か所で街頭演説を行い、先月発足した野田政権がいかに国民騙しの政治を企んでいるか具体例をあげて訴えました。

くまがい桂子市議が話し始めると、冷たい風が吹く中をじつと聞き入る市民姿があちこちに見られました。恵団地では予定の時間に合わせ、後援会の仲間が連れだって出演を聞き出していました。



街宣する女性キャラバンと、寒風の中で聞き入る市民の方々

小・中・高生と音楽協会 共催で「音楽発表会」開催！

10月15日(土)、市内小・中・高校そして音楽協会(加盟5団体)が夕張中学校で第54回の音楽発表会を開催しました。

音楽協会は昨年「第23回市民音楽の夕べ」を最後にし、今年から夕張市教育委員会、同教育研究協議会と共催で「音楽発表会」に参加することになりました。

市内の音楽サークルに加え、小中高生の楽しい発表で、プログラムは盛りたくさんとなりました。中でもゆうぱり小1,2,3年生の「マル・マル・モリ・モリ！」の元気な合唱では、会場に集まった保護者や観客を大いに沸かせました。



(夕張中学校3年生合唱)

くまがい桂子の 核問題



日本共産党 夕張市議
くまがい桂子

情報を明らかにせず 多額の金で地元を従わせる国策事業！

「10・16新鉱大災害から脱原発を考える夕張市民集会」に、新鉱事故の裁判で弁護団に加わっていた市川守弘弁護士から「北炭夕張新鉱事故の命を礎にして」の原稿が寄せられました。

これによると、国や北炭は、危険を承知で、安全と偽って掘削をさせたこと、三菱大夕張炭鉱には備えてあった、安全には不可欠な静電気防止のビニールシートを経費削減のためか備えておらず、その結果突出した大量のガスが爆発し93名の命を奪う決定的なものになった。当時、情報がすべて公開されていれば事故は起きなかつたし、国民が情報を得ていないからこそ、国策を優先できた。

それは、福島原発事故も同じである。国と企業が情報を明らかにすることなく「安全性」を押し付け、多額の補助金で地元を従わせる。一方的な「安全性」には決して騙されない知恵を持つこと、それには常に、不断に行政、官僚を監視する運動が不可欠で、国策事業に際しての市民のなすべきことは何か、という一般性を示している…と書かれています。

「30年前にも福島原発と同じようなことがあったんですね」という若者の言葉に、30年たつてもいまだに変わらない、国や企業の利益最優先、人命軽視の姿勢に、背筋が冷たくなりました。

「燃えるような紅葉の色は、怨念の色…」と表現された、炭鉱労働者や家族の無念の思いが生かされず、地震・津波・大国日本で、安全神話の上に再び起きた、福島原発事故！脱原発は当然です。

情報は不明瞭、市民の暮らしや文化を削り取り、多額の交付税で巨額赤字を返済している夕張の行政―炭鉱も観光も、財政破綻も国策では？ならば、騙されない知恵・監視する運動が不可欠ですよ。